

「木場の窓から見えるもの(元外交官の視点)」

当社顧問石井正文氏(前駐インドネシア日本国大使)による
気になる海外情報を原則第2、第4木曜日に配信しています。

第34回:ロシアは孤立か? ;一喜一憂せず先を見る

2022年9月22日配信

【ポイント】

- 9月15日~16日ウズベキスタンで開催の上海協力機構(SCO)首脳会合の機会に行われた中口首脳会談では、ウクライナ情勢を巡り中口の温度差が表面化。印口首脳会談でも同様。
- ただ、対米関係で中国とロシアは、それ以外に意味のある協力相手はおらず、今後も協力し合わざるを得ないと言うのが現実。今回の温度差顕在化を過度に重視すべきでない
- 一方、SCOの加盟国拡大を過度に警戒する必要もない。烏合の衆増加に実質的意味無し。
- 今回一層明白になった今後の注目点は、旧ソ連圏の中央アジアを巡る中口の力関係の行方。ロシアは結局中国と協力せざるを得ないが、ロシアの「裏庭」に中国が手を突っ込みすぎると、ロシアの第三国(特にインド)との関係が相対的に緊密化する可能性

【本文】

- 9月15日~16日、ウズベキスタンの首都サマルカンドで上海協力機構(SCO)首脳会談開催
 - ・ 16日には、中国が重視する「多極的世界秩序」に言及した共同声明発表
 - ・ 来年印主催首脳会議からイラン正式加盟。ベラルーシ加盟手続開始。トルコも加盟希望表明し、拡大方向が明確に。ウクライナ戦争の教訓から、孤立を避けたい中国の意図反映
 - * 現加盟国8か国; 中, 口+ 中央アジア4カ国(カザフ, ウズベク, キルギス, タジク)+ 印, パ
 - * 現オブザーバー国4か国; アフガニスタン, ベラルーシ, イラン, モンゴル
 - * 現対話パートナー国6か国(将来加盟を視野); アゼルバイジャン, アルメニア, カンボジア, ネパール, トルコ, スリランカ→今回エジプト, サウジを追加+UEA, クウェート, バハレーン, ミャンマー, モルディブ追加手続開始
 - ・ 一方、加盟国拡大自身は過度に警戒する必要無し。逆に多様性増せば緊密性は薄れる
 - * 国名を見ても「烏合の衆」以上のものは無く、実質的意味は少ない
- この機会に行われた中口首脳会談ではウクライナ戦争を巡る温度差が明確化
 - ・ 前回は北京五輪開会式時の2月4日。共同声明で「限界の無い」友情を表明
 - ・ 今回は(前2回と異なり)そもそも共同声明無し
 - * 冒頭プーチンがウクライナ問題への「中国の懸念を理解」と発言したのは異例
 - * 中国側は会談対外発表に遅れ。当日の外務報道官会見でも無言及。人民日報では中・ウズベク会談がトップニュース。中口はその次で握手していない写真掲載
 - * 習主席は、ロシアと「核心的利益に関わる問題」で互いに強く支持、と表明。台湾・ウクライナを念頭に置いているとも聞こえるが、「限界の無い」友情からは後退

- ただ、対米関係で中国ロシア双方共、それ以外に意味のある協力相手はおらず、今後も協力し合わざるを得ないと言うのが現実。今回の温度差顕在化を過度に重視すべきでない
 - ・元々台湾関係で内政干渉を容認できない中国はウクライナ戦争支持明言に慎重
 - * 2月の共同声明(ロシア侵攻前)でもウクライナへの言及は皆無
 - * 今次SCO首脳会談でも、習主席は(台湾念頭にだが)「内政干渉に共に対抗」と発言
 - ・欧州市場を失ったロシアは資源貿易で益々中国に依存。中国にとってもロシアは有用
 - * 中口貿易は拡大。2022年には約15%増の予測。ウクライナ戦争後も急増
 - 8月の中国の対口輸入は前月比6割増で過去最大
 - 特にロシアからの原油輸入は5月以降サウジからの輸入を超え、トップ
 - 一方、ロシアの対中輸出の約8割は資源。増えているのはその部分のみ
 - * ちなみに、今次SCO首脳会談に際し中・ロ・モンゴル首脳会談実施。これは、ロシア産ガスのモンゴル経由パイプラインでの対中輸出計画と関係。今後要注目
 - 但し、完成は2024年頃。その後も口の対中輸出は対欧輸出を補うには不十分

- 今回一層明白になった今後の注目点は、旧ソ連圏の中央アジアを巡る中口の力関係の行方
 - ・習主席はカザフとウズベク「から」勳章授与。ベラルーシと全面的パートナーシップ締結
 - ・プーチン大統領はウズベク大統領「に」勳章授与。ロシア・キルギス首脳会談に遅刻したのは、常習犯のプーチンではなく、キルギス大統領
 - ・中央アジア諸国では、従来からあるロシアから距離を置く動きが若干顕在化
 - * カザフのトカエフ大統領は、6月のサンクト国際経済会議で、ウクライナ東部の親口派地域を正式な国家とは認めない、と明言
 - ・ウクライナ戦争の影響から旧ソ連圏で紛争が表面化しつつある例も
 - * タジク・キルギス国境紛争→両国駐在のロシア兵のウクライナ投入による空白化？
 - * アルメニア・アゼルバイジャン国境紛争→トルコ支援を受けるアゼルの仕掛け？

- 国力が低下し孤立を高める中でロシアが中国を必要とする度合いは増加する一方、台頭する中国にとってのロシアの意味は相対的に低下。その中で、ロシアが持つ数少ない優位性の一つ＝「裏庭」である旧ソ連圏との関係に中国が手をつき過ぎると、ロシアの第三国(特にインド)との関係が「相対的に」緊密化する可能性あり。これは日米及び、その同志国にとって悪い話にあらず
 - ・ロシアは対中関係維持せざるを得ないが、常に格下にあるのはロシアのDNAに反する
 - * 過去の歴史から見ても、ロシアが中国以外に相対的に関係緊密化する意味のある相手は、将来の3大国(米中印)の一角を占め、中国と緊張関係にあるインド
 - ・今回、印中首脳会談も実施
 - * モディ首相はウクライナ戦争に関し「今は戦争の時ではない」と苦言。プーチン大統領は「懸念は良く理解」「(侵攻が)一刻も早く終わるよう手を尽くす」と応答
 - ・ちなみに、今回印中首脳会談は行われなかった模様

(以上)
りそな総合研究所 顧問 石井正文

問い合わせ先: りそな総合研究所 アジア室 石橋修三
メールアドレス: shuzo.a.ishibashi@rri.co.jp